

令和４年度 第９回理事会

日 時：令和４年１２月２日（金）１６：３０～

場 所：森林整備センター（川崎市）

I．報 告

- 1．「コンプライアンス推進に向けた標語」について [コンプライアンス推進室]
- 2．役員給与規程の一部改正について [職員課]
- 3．職員の給与改定等について [職員課]
- 4．令和４年度特定母樹等普及促進会議の開催状況について [林木育種センター]

II．その他

- 1．今後の行事予定について
- 2．主要行事
- 3．令和４年１１月に森林総合研究所が広報した研究成果

第9回理事会資料
令和4年12月2日
法令遵守担当理事

「コンプライアンス推進に向けた標語」について

令和4年12月をコンプライアンス推進月間と位置付け、役員からのメッセージ発信やハラスメント研修、コンプライアンス推進に向けた標語の募集などの取組を実施している。

各コンプライアンス推進委員会により選定された優秀標語を報告する。

【森林総合研究所等】

「知らんけど」、あなたのモラルは大丈夫？

北海道支所 吉田和正

次点（同得点）

- 問題は 慌てず抱えず チームで共有
- 人の道、外れて研究、大義なし！
- 一滴（ひとしずく） 黒がすべての白染める
- 助け合い 皆で作ろう 明るい職場
- 小さな偽り、大きな後悔

応募総数 45 点（27 名）

（人数内訳：役員 1、研究所 17、支所 6、林木育種センター 1、育種場 2）

【森林整備センター】

指導でも 言い方一つで パワハラに

森林管理部財務課 林田 誠

次点（同得点）

- コンプラは 明るい職場の 設計書
- 自己点検！「慣れ」と「過信」と「思い込み」

応募総数 55 点（47 名）

（人数内訳：役員 1、整備センター13、整備局 8、水源林整備事務所 25）

【森林保険センター】

自分の常識 他人にとっては非常識？ 自分を疑い 防ごうハラスメント

保険企画課 小澤一輝

次点（同得点）

- 「おかしいな」「どうしよう」 言える、聞ける職場へ
- おかしくない？ みんなが言える 良い職場

応募総数 27 点（15 名）

以上

理 事 会 資 料
令 和 4 年 1 2 月 2 日

役員給与規程の一部改正について

1. 令和4年12月1日付けの役員給与規程の改正

(1) 給与規程の改正について

国家公務員において「公務員の給与改定に関する取扱いについて」が閣議決定され、官民格差等に基づく給与水準の改定が行われることとなったところである。

当法人においても国に準じた取扱いとするため、令和4年12月1日に役員給与規程の一部改正を行うこととする。

(2) 改正の主な概要

① 期末特別手当の支給割合の引き上げ

期末特別手当の年間支給割合を0.05月分引き上げて3.2月分とする。

② 改正時期

令和4年12月1日

職員の給与改定等について

I. 給与規程等の改正について

国家公務員において「公務員の給与改定に関する取扱いについて」が閣議決定され、官民格差等に基づく給与水準の改定が行われることとなったところである。

当法人においても、国家公務員に準じた内容で労働組合に給与改定等を提案し、賃金改定交渉において妥結したことから、令和4年12月1日に職員給与規程等の一部改正を行った。

II. 改正の主な概要

1. 賃金改定について

(1) 月例給

① 一般職員俸給表

改定率平均0.3%。一般職員の大卒程度に係る初任給を3,000円、高卒者に係る初任給を4,000円引き上げ。30歳台半ばまでの職員が在職する号俸について改定する。

② その他の俸給表

一般職員俸給表との均衡を基本に改定（指定職員俸給表は改定なし）。

(2) 特別給の支給割合の引き上げ

特別給の支給割合は、以下のとおり。

俸 給 表	改正前	改正後
一般職員・技術専門職員・研究職員	4. 30月	4. 40月
任期付研究員	3. 25月	3. 30月
指定職員	3. 15月	3. 20月
再雇用職員	2. 25月	2. 30月

2. 非常勤職員の賃金改定

(1) 月例給

算定基礎となる常勤職員の俸給表改正を踏まえて令和5年4月1日から改定

(2) 特別給

2.25月分から2.30月分へと改定する期末手当の支給割合を0.05月引上げる。ただし、次期契約時から適用。

〔 R5.4.1から適用 〕

3. 住居手当の改定

再雇用職員及び再雇用短時間勤務職員が、自ら居住するため住宅を借り受け、家賃を支払っている場合は単身赴任者に限らず支給する。

〔 R5.4.1から適用 〕

4. 休暇制度の改定

常勤職員の産前休暇については、地方自治体、国立大学法人、他独法の対応も踏まえ、8週間(医師等の指導に基づき勤務しないことがやむを得ないと認められる場合に限る。)に延長する。

〔 R5.1.1から適用 〕

Ⅲ. 改正時期

令和4年12月1日(1. 賃金改定についての(1)は、令和4年4月1日から適用)

令和 4 年 12 月 2 日
理 事 会 資 料
林木育種センター

令和 4 年度特定母樹等普及促進会議の開催状況について

1. 会議の趣旨

本会議は、平成 25 年度の間伐等特措法の改正により特定母樹制度が導入されたことを契機とし、特定母樹等の早期普及に向けた取組を地域において推進するため、特定母樹の指定・増殖状況や性能、採種園・採穂園の整備状況等について、関係者間での情報共有を図るとともに、特定母樹等の開発や関連技術等に関するニーズを把握することを目的として、林木育種センター及び各育種場の主催により、平成 27 年度から育種基本区ごとに開催している。

今年度は、Web 会議等により開催した。

2. 参加者

林野庁、森林管理局、都道府県、認定特定増殖事業者、林業団体、森林総合研究所関係領域・支所、森林整備センター、森林保険センター

3. 開催状況

育種基本区ごとの開催時期等は以下のとおり。全体でおよそ 350 名が参加。

- (1) 北海道地区： 9 月 21 日（水） 北海道札幌市（かでる 2・7）
※集合会議と Web 会議の併用
- (2) 東北地区： 10 月 25 日（火） ※Web 会議
- (3) 関東地区： 7 月 29 日（金） ※Web 会議
- (4) 関西地区： 10 月 3 日（月） 大阪府大阪市（近畿中国森林管理局）
※集合会議と Web 会議の併用
- (5) 九州地区： 11 月 8 日（火） ※資料配付による書面開催

4. 主な説明事項

- ・ エリートツリー等の開発や特定母樹の指定・普及に係る状況及びそれらの特性情報等
- ・ 特定母樹の試験植栽及び展示林設定に向けた協力依頼
- ・ 認定特定増殖事業者及び関係機関による取組状況
- ・ 森林保険制度の概要説明（森林保険センター）

5. 主な意見・要望等

- ・スギではジベレリン処理、カラマツ類では環状剥皮等の着花促進技術を活用し、種子の安定的な確保に向けて取り組んでいるところである。トドマツについても着花促進剤等による結実促進のための技術開発をお願いしたい。（北海道地区）
- ・カラマツ特定母樹の採種園造成について技術的支援をお願いする。（東北地区）
- ・特定母樹の採種園産種子から育成した苗木の成長性について、どの程度母樹の効果を引き継いでいるのか。（関東地区）
- ・ヒノキ特定母樹のミニチュア採種園の造成において、採種サイクルや剪定方法について御教示願う。（関東地区）
- ・特定母樹採種園の管理方法や特定母樹のクローンの育成技術について、新しい情報があれば提供してほしい。（関西地区）
- ・少花粉品種の特性を持つヒノキの特定母樹の開発・指定の進捗状況をお伺いしたい。（関西地区）
- ・認定特定増殖事業者の要望に対応できるだけの配布量の確保をお願いするとともに、今後もエリートツリーや特定母樹の普及および苗木生産者の技術向上に引き続きご協力いただきたい。（九州地区）

6. 当日の様子



（東北地区）Web 会議の様子



（関西地区）参集での会議の様子

令和４年１２月理事会資料
 国立研究開発法人
 森林研究・整備機構

今後の行事予定について

日 付	研 究	整 備	保 険	行 事 名 等	場 所 等
12月2日	○			日本プロジェクト産業協議会（JAPIC） 森林再生事業化委員会	鉄鋼会館（オンライン）
12月3日～ 4日	○			屋久島学ソサエティ第10回大会	屋久島環境文化村センター （屋久島学ソサエティとの共催）
12月6日	○			九州支所見学会	九州支所
12月13日	○			監事監査	九州支所
12月19日	○			種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム 「小笠原の絶滅危惧種に注目して」	オンライン （日本植物園協会との共催）
1月26日	○			SATテクノロジー・ショーケース2023	つくば国際会議場
1月31日～ 2月1日	○	○	○	WOODコレクション（モクコレ）2023	東京ビッグサイト

会議等については、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、時期および開催手法が変更となる場合がある。

主要行事(令和4年11月11日～令和4年12月1日)

月 日	行 事 内 容	出 席 者
11月11日(金)	【共】第8回理事会	理事長、各理事、森林保険センター所長、両監事
14日(月)	【研・育】一般職採用者研修 (千代田苗畑、林木育種センター)	企画・総務・森林保険担当理事
16日(水)	【研】労使懇談会	理事長・企画・総務・森林保険担当理事、研究担当理事
17日(木)	【共】機構評議会	理事長、各理事、森林保険センター所長、両監事
18日(金)	【研】地域情勢交換会議	理事長、企画・総務・森林保険担当理事、研究担当理事
24日(木)	【研】小川試験地35周年記念シンポジウム	理事長、研究担当理事
29日(火)	【研】研究成果等管理委員会	研究担当理事
12月1日(木)	【研】環境研究機関連絡会研究交流セミナー	理事長、研究担当理事

※ 【研】: 森林総合研究所、【育】: 林木育種センター、【整】: 森林整備センター、【保】: 森林保険センター、【共】: 共通の行事 の略

令和4年11月に森林総合研究所が広報した研究成果

	広報タイトル	研究者・担当者名	掲載誌名	論文公開時期	備考
1	小型ガス化熱電併給装置向け乾燥チップ流通 鍵はチップの適正価格実現	ヨコタ ヤスヒロ 横田 康裕 (九州支所)	日本森林学会誌、104 巻(3)、127-138	2022年6月	
2	タケに含まれる未利用成分を微生物の力で ポリマー原料に変換	スズキウツウ 鈴木 悠造 (森林資源化学 研究領域)	Bioresource Technology、Vol.363、 127836、Elsevier	2022年11月	
3	一部の木を伐らずに残す保持林業は菌根菌の 多様性を保全する	オハセ ケイスケ 小長谷 啓介 (きのこ・森林微生物 研究領域)	Forest Ecology and Management、 523:120501、Elsevier	2022年11月	
4	川底のヒメドロムシは土壌粒子・水深・流速 などの環境に応じて生息場所を変える	ヨシムラ マユミ 吉村 真由美 (関西支所)	Journal of Insect Conservation	2022年11月	
5	マダニリスクが高い森林の特徴が明らかに ーシカの密度と植生が鍵となるー	イシヅマ ハヤト 飯島 勇人 (野生動物研究領域)	Journal of Medical Entomology	2022年9月	プレスリリース
6	推定1,000億匹以上： 伊豆諸島におけるスダジイタマバエの大発生と その原因について報告	コダカノブヒコ 小高信彦 (九州支所)	Entomological Science	2022年11月	プレスリリース (佐賀大学主導)
7	原発事故後10年間の森林土壌中の放射性 セシウム動態を解明 ーほとんどが鉱質土層表層に移動し、留まり続けるー	マナカ タケヤ 真中 卓也 (立地環境研究領域)	Journal of Environmental Radioactivity	2022年8月	プレスリリース

(シンポジウム・イベント)

	名称	担当	主催等	開催場所	開催日	備考
1	COP27ジャパン・パビリオン・ セミナー 「気候変動の緩和と適応双方の推進に 向けた森林分野のNature-based Solution (NbS)」	REDDプラス・ 海外森林防災 研究開発セン ター	REDDプラス・海外森林防 災研究開発センター	エジプト (Sharm el-Sheikh)	11月18日 (金) 15:00～16:30	司会者：気候変動 研究担当 平田ディレクター
2	小川試験地35周年記念シンポジウム 「長期試験地を維持していく意味 ー小川試験地、これまで、これからー」	直江将司 (東北支所)	国立研究開発法人森林 研究・整備機構 森林総 合研究所	東京大学 弥生講堂 一条ホール (ハイブリッド開催)	11月24日 (木) 10:00～17:00	

注) 研究成果については、いずれも国立研究開発法人森林研究・整備機構中長期計画に定める重点課題等に対応するものである。